



令和元年度 第8回定時総会

(2019. 5. 26)

令和元年を迎えそして
設立十周年を目指して

支部長 今井 康之（昭32年経営）

令和の時代を迎え、校友の皆様には「健勝にて」活躍のこととお慶び申し上げます。

当地域支部は今年で設立八年目を迎えることが出来ました。これも全員相互のコミュニケーションはもとより、地域の皆様はじめ、多摩支部の皆様とも連携し活動させていたいただいた結果と確信しております。

十周年を迎えるにあたり

☆地域密着型校友会活動

☆新会員入会促進活動

☆女性会員の拡充

を目標に校友会活動を行ってまいります。同時に清瀬の自然を生かした健康増進活動。紫紺句会を中心に「西の松山・東の清瀬」を合言葉にした俳句創作活動。

今年ラグビーワールドカップの開催、来年はいよいよオリンピック、パラリンピックの開催とビックイベントが目白押しです。

高倍率のチケットをゲットされた方もいらっしゃると思いますが、実際の競技場に足を運ばなくとも、日々の報道で気分が高揚して来るのは間違いないと思います。

私共明治大学校友会清瀬地域支部は清瀬に生活する喜び、母校の応援と同時に仲間との絆を大切に且つ健康に留意して充実した日々を送ってまいりたいと思っております。

皆様方の一層のご支援を賜り活動してまいります所存です。



第八回清瀬地域支部定時総会を終えて

幹事長 粕川 偉二男（昭48年政経）

去る五月二十六日、第八回定時総会が開催されました。少子高齢化が叫ばれる中、課題である新規会員の増強、更には女性会員拡充の為に本年もあらゆる可能性を追求して参ります。
俳句ブームの中「紫紺句会」は益々活発な句会の場となっております。



定時総会はアミュービル6階



懇親会会場のシダックス



更に健康増進を兼ねた「ウォーキング」「東京湾クルーズ」などのイベントをはじめ、情報共有としての「紫紺ネット」の活用、他地域支部との連携等積極的な活動を行ってまいりますので今後とも一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

令和元年度の事業活動について

幹事長 粕川 偉二男（昭48年政経）

令和の時代を迎え、本年も心新たに地域密着型校友会を目標に活動して参ります。
清瀬の自然を生かしたイベントを主体に企画を立てて参ります。「水再生センター見学会」「大林組技術研究所 キンラン・ギンラン見学会」「ひまわり祭り」「台田曼珠沙華見学会」「金山公園野鳥観察会」など恵まれた自然を満喫してゆきたいと考えております。

更には清瀬近隣の工場見学会も企画しております。「コカコーラ東京工場」「山崎製パン工場」等を候補に挙げ実施して参ります。

一方母校の各キャンパスの充実度は目を見張るものがありますので、見学会を検討しております。

駿河台キャンパスでの昼食会、和泉校舎見学、中野キャンパス見学、更には生田校舎まで足を延ばしたいと考えております。

本年は野球部が大学日本一となったことは記憶に新しいですね。秋季リーグでは明早戦応援も企画されております。同じく大学日本一になったラグビー部も楽しみです。ラグビーワールドカップで活躍する後輩の姿が輝いて見えるでしょう。今年も明早戦応援が企画されていますのでご期待下さい。また、昭和二十四年の総合優勝から久しく優勝の二文字が遠い「箱根駅伝」も楽しみです。今年はや選会からスタートですが、オリンピックイヤーに相応しい活躍を期待したいものです。

母校の応援、イベント参加も健康あつてのこと、皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念しております。今後ともご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。



第十六回多摩支部定時総会

佐藤 房夫（昭39工）

七月七日（日）午後一時より、立川グランドホテルにおいて定時総会が開催されました。あいにくの雨の中、二百四十五名の会員が集い、清瀬から五名が参加しました。

第一部 公開講演

明治大学文学部教授 諸富祥彦氏

「人は、深いふれあいの中で、自己を知る」
四人一組になりデイスカッションしながら、人間関係を深めていく実践講義でした。

第二部 定時総会

すべての議案が承認されました。役員改選があり、支部長 當麻功氏（小平・昭39・商）

幹事長 太田東平氏（町田・昭40・政経）
が選出されました。

第三部 懇親会

来賓祝辞のあと、明大ビッグ・サウンド・ソサエティオーケストラの演奏の中で歓談しました。

最後に会場いっぱい大きな輪で肩を組みながら校歌斉唱と万歳三唱し散会となりました。



清瀬地域支部の参加者



明大ビッグ・サウンド・ソサエティ

清瀬地域支部入会に寄せて



柳澤 友美子 (平11農)

私は、大学では農学部農学科出身、大学サークルも自然科学系に所属していました。そして、清瀬に転居することになった際には、こちらは緑豊かな地域であり、転居前と同じ都内とあり、比較的親しみやすい環境だと感じました。

明治大学校友会清瀬地域支部の入会の動機は、大学の友人・知人を今後も大事にしていきたいという思いがあるからです。

主人は、校友会清瀬地域支部の発足後しばらくしてから入会しましたが、私自身は子供が出来るまで清瀬地域支部の入会は遠慮してみようかという考えがあり、入会を先延ばししていました。

都内の実家にいた頃でも、校友会会員ではありませんでしたが、学生時代とはまた雰囲気が違うものの、その後の人生において参考になることも大変多くありました。

しかしながら自己主張よりも、周囲の流れや意見に流されてしまったり、一度社会に出てから築く交友関係に限界があることが多いことに気付かされたりといった場面に遭遇したりすることがありました。

こうした事を背景に、大学時代の気の置けない仲間の会話や意見が今さらながらに新鮮に感じられることもあります。そういったことの積み重ねが、大学時代に出会った人々との繋がりを大事にしていきたいと考える所以なのです。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

平成最後の大花見会

清水 計明(昭53商)

去る三月三十一日(日)午前十一時、曇り空の下、台田柳瀬川沿いの桜並木に校友十二名が参加しました。肌寒い日ではありましたが、朝早くから場所取り、屋台と太鼓演奏、踊りなどでにぎわいを見せていました。桜を観る前に、記念に集合写真撮っていると、「撮りますよ!」と気軽にシャッターを押してくれる美女!が出現。話を聞くと後に二次会に加わった校友の黒田さんの娘さんとのこと。明治の小旗を持つての花見がいきなり功を奏した結果となりました。



感じました。その後、有志による二次会もあり盛り上がった観覧会でした。(当日、トータル16,427歩でした。)

花見は早々にして、昼食場所へ移動する

途中、旧森田家(野塩から平成六年移築に立ち寄ると、ちょうど川沿い古民家を燻して、養柳生しているところでした。会食は予約していた「石臼手挽き・十割そば池添」にて、ビール、日本酒(熟燗)を飲んでみると、やつと窓越しに明るく日が差してきて、身も心

添も暖かくなり、蕎麦と酒を満喫し、「平成最後の大花見会」はお開きとなりました。「池添」の店主のお父様と息子様も明治大学校友とのことでご縁を感じました。

第十二回麻雀大会を開催

福島 寛(昭37政経)

八月二十九日に明大校友会清瀬地域支部主催の第十二回麻雀大会が、駅近くの健康麻雀「たんぼぼ」で開催されました。今回は清瀬地域支部から今井支部長をはじめ、和田副支部長、斎藤副幹事長、村野幹事、それに私と五名が参加しました。また、日頃から親しくしている稲間会の方が二名と一般市民の方が五名参加され、十二名三卓で開催されました。



今井支部長の開会挨拶の後、午前十時にスタートし六回戦を競いました。今井支部長、和田副支部長は体調が優れないところを、体を押し参加していただきました。

戦況はかなりもつれましたが、最終結果は一位〜三位は一般市民の方が獲られ、清瀬地域支部の方々は、あまり成績が振るわず、和田副支部長が五位に入賞されました。

懇親会 盛り上がった
幸い天気にも恵まれ、清々しい一日を過ごすことが出来ました。
大会後は近くの居酒屋に一般市民の方を含め八名で行き、大いに盛り上がりつつ散会しました。



東京湾クルーズ乗船記

佐藤 房夫(昭39工)

去る八月二十四日、隅田川ラインのクルーズ船観光に参加しました。東京湾のクルーズは今年で三回目となります。参加者は校友と清瀬句会の方と一般の方の総勢十三名です。



浅草雷門

前日まで秋雨前線の停滞により天気の良い状態が続いていましたが、当日は雲間から薄日の差す絶好の天気となりました。八時に清瀬駅を出発し、副都心線の新宿三丁目から地下鉄を乗り継ぎ浅草に到着しました。出発までの待ち時間に仲見世商店街から浅草寺へ散策しました。参拝したのち境内にある久保田万太郎の句碑などを見ながら過ごしました。浅草界隈はいつもより人出が少な

い印象でした。十時四十分吾妻橋のり場から隅田川ラインの出発です。乗船は「リバータウン」定員五百五十名の大型船。冷房はありませんでしたが、薄日の差す曇り空で川風も吹き込み気持ちの良い船旅でした。船は駒形橋、厩橋、蔵前橋、両国橋へと進み途

お台場海浜公園



中、両国国技館や芭蕉庵史跡展望園を眺め、最後に勝鬨橋を抜けると緑豊かな浜離宮です。浜離宮に寄港したあと日の出棧橋で下船、すぐに次の船に乗り換えました。今度の船は「アワータウン」定員三百二十名の中型船。ここからはレインボーブリッジをくぐれば終点のお台場海浜公園まで二十分で到着しました。帰路は台場駅から豊洲経由で清瀬駅十三時三十分到着。南口の蕎麦屋にて祝杯し、美味しい蕎麦をいただきました。

天気にも恵まれた楽しい一日になりました。

エッセイふるさとシリーズ ⑨

我が故郷「岩手県・普代村」

梶谷 榮吾(昭46法)



「田舎なれども南部の国は西も東も金の山」と歌われる岩手県。北海道に次ぐ広い面積(15,275.01km²)に約二四万人の人口を有する県ですが、内陸の北上盆地と沿岸部を除くと山地、丘陵地の多い県です。私の故郷は陸中海岸の北部にある「普代村」という人口二千六百人余の岩手県で一番人口の少ない村です。

近隣には、鍾乳洞の龍泉洞、二百mの断崖絶壁北山崎、NHK朝ドラ「あまちゃん」で有名になった北限の海女の久慈市小袖海岸などがあります。

生家は村の山間部にあり、中学校には毎日片道六kmの山道を歩いて通学していました。

沿岸部は今でこそ国道や鉄道が整備され便利になりましたが、私が育った時代はとも交通の不便な地域で、県都盛岡市まで行くのに八時間も要していました。

村の特産は、ウニ、アワビ、ワカメ、ワカメ、鮭など海産物ですが、私は大好きな珍味「ホヤ」の刺身をお勧めしたいと思います。

○東日本大震災その後

二〇一一年三月十一日発生の東日本大震災で沿岸部の市町村は甚大な被害に遭いました。現在も復興道路の建設工事が進められており、八戸市・仙台市間の三陸沿岸道路は二〇二〇年度末に全線開通の予定です。

また、復興事業として推進された八戸市・相馬市間の全長約一千二五kmの長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」が今年六月に全線開通しました。

多くの皆さんに足を運んでもらいたいです。

○県都盛岡市

高校時代三年間を過ごした盛岡市は人口二九万人余の城下町です。



「盛岡市」岩手山を遠望

岩手山が聳え市内を北上川が流れ、市の中心部には盛岡城址公園があつて市民の憩いの場になっています。

豊かな自然環境に恵まれており、毎日岩手山を眺めながら過ごした三年間の高校生活や下宿生活が懐かしいです。市内にある国の天然記念物「石割桜」を紹介します。

巨大な花崗岩の割れ目から育った直径約一・三五m、樹齢三三〇年を超える桜が今なお毎年春にきれいな花を咲かせています。



石割桜



○世界文化遺産「平泉」

岩手県は四季を通して素晴らしい観光地がたくさんあります。二〇一一年に



中尊寺金色堂

中尊寺を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産に登録されました。中尊寺金色堂や毛越寺は一見の価値があるでしょう。

○岩手県の輩出した有名人

石川啄木、宮沢賢治、プロ野球選手の菊池雄星、大谷翔平、プロゴルファーの日蔭温子、演歌歌手の千昌夫、新沼謙治など。楽天イーグルスのキャプテン銀次選手は、普代村出身で私の知人の孫です。

海の幸、山の幸に恵まれている岩手県、もともとと紹介したいのですが、岩手県の中でも僻地出身の私の拙い紹介より、スマホやパソコンでお調べいただけると嬉しいです。

「特別寄稿」

北海道案内「北の夜明け、先住の人びと」

島崎 光（昭31商）

私は、サラリーマンのいわゆる転勤族であり、九州の勤務を経て北海道となりました。時代は、石炭から石油への転換期、地縁に祖父が室蘭製鉄所建設で働いていたこともあって、先住民族など北海道の歴史や産業に興味を持ち、その一端として寄稿しました。

平成三十一年四月、アイヌ民族を法律上初めて「先住民族」と位置づけたアイヌ新法が参議院本会議で可決され、成立した。

アイヌ文化を守り育てる施策を国の責務と定めたことに「一歩前進」と評価がある一方、国連の「先住民族の権利に関する宣言」に盛り込まれた先住権には触れていないなど課題も残すことになりました。

「先住民族であるアイヌの人々」と新法第一条はこうした表現で始まる。アイヌ民族にかかわる従来の法律と大きく異なる点だ。差別禁止を明記し、アイヌ施策を国や自治体の責務とした。

民族の儀式や文化伝承を目的にした国有林の利用、鮭の採捕などに特例措置を設けた。

国は白老町（アイヌの人々の町）に「民族共生象徴空間」を整備しており、来年四月に国立アイヌ民族博物館としてオープンする。東京五輪・パラリンピックに政府の先住民族政策をアピールする狙いも見られる。

北海道旧土人保護法からアイヌ文化振興法、そして今回の新法へと長い時間をかけて前進して行く。

日本列島の北部にはアイヌの人々が暮らしており、その範囲は、現在、北海道、樺太（サハリン）、千島（クリール）、東北北部に確認されている。彼等は半年もの間に閉ざされる厳しさのなかで、狩猟、漁労、採取を中心に生活していた。

このような風土のなかで、風俗、習慣、言語、信仰など独自のものを作りあげたアイヌ文化に、今日では殆ど触れることができなくなっている。

アイヌの人びとが一般に史実として知られるようになったのは、室町時代初期のことであるが、彼等の存在はかなり古い時代にまで遡ることができ、いわゆる「縄文人」と呼ばれる人びとと深いかわりがあったと言われている。

地中から発掘される遺物や遺構は年々増え、徐々に文化の空白部を埋めつつあるが、広大な土地に点在する遺跡はあまりにも多く、古代の歴史が解き明かされるまでには、まだ相当の時間が必要である。

一方、アイヌの人びとは祖先からの文化を今日も伝えているが口伝であるため詳細なことはあまりわかって

いない。民具を中心とする木彫りや樹皮衣等は、最近になり北海道の伝統的工芸品として認定されたのである。

北海道が古文書にはつきりと記されるようになったのは鎌倉時代からである。「蝦夷が千島」などと呼ばれ、この時代の東の果てと思われていた。北海道が本州と結びつくのは室町時代から日本海沿岸にひろがった商業圏に道南郡が組み込まれてからである。

十五世紀の中ごろに道南に住みついた和人の中からいくつかの小領守（館主）が出現した。交易品の価格などの対立から館主とアイヌ館主同志の争いが約一世紀続いたが、館主の一人蛎崎氏が館主たちを統一し、大館（後の松前）を本拠とした。

蛎崎氏はアイヌと講和した後、豊臣、徳川の政権に服属し、アイヌと独占的に交易する権利をもつことを公認され、姓も松前と改め松前藩となった。北海道の近世のはじまりである。



アイヌの人々



民族共生象徴空間の完成予想図



ポルトガル彷徨

中村 曠 (昭36政経)

一度行きたい国、ポルトガルに今年の春、旅してきました。直行便が無いので羽田からロンドン経由でポルトガル第二の都市ポルト市に入りました。



赤い屋根と教会

ポルトガルは日本開国に大きな影響を与えたことは知られています。鉄砲の伝来、キリスト教宣教師ザビエルの来訪そしてヨーロッパ初訪の天正遣欧少年使節などです。ポルトガルは坂の多い街、赤い屋根と教会尖塔が目立ちます。ポルトの発展はドウロ川、河岸には荷物積み出しの倉庫が多く、橋が多いことです。



ポルトワイン運搬船

また、川沿いにはポルトワインワイナリーが立ち並び対岸は旧市内です。河口までバスで行ってみました。大西洋の荒波が打ち寄せ観光名所になっていました。市内の教会の外壁にはアズレージョと言うタイル絵が見られます。特にサン・ペント駅の構内のアズレージョは華麗で見事です。坂道の多い市内の交通機関は市電が多く走って

ました。

治安が良く、物価の安い親日国ポルトガルは旅のお勧めです。



サン・ペント駅のアズレージョ



ドウロ川の橋は橋脚が高い

★第十一回石田波郷俳句大会について

榎谷 榮吾 (昭46法)

第十一回石田波郷俳句大会は、十月二十七日(日)に開催されます。主催者である清瀬市石田波郷俳句大会実行委員会は、今年度より新会長に大島薫氏が就任し、大会に向けて四月より毎月一回の頻度で会議を開催してきました。我が校友会も実行委員会に三名参加しているほか、この大会の成功に向けて校友会より寄付金提供、紫紺句会及び粕谷名誉地域支部長より広告掲載、投句の俳句のパソコン入力作業に協力しています。また、大会当日の司会や会場係などにも協力することになっています。

今年石田波郷没後五〇周年に当たります。大会を盛り上げるため、あぢさゐ吟行句会(六月十四日)を開催したほか、市内小中学校への俳句出前授業には、校友会より、俳句の先生として大山恭子さん、授業のアシスタントとして穴田さん、佐藤さん、中村さん、私の四人が協力しました。小中学生の新鮮な句に触れて我々も刺激

を受けた次第です。

☆石寒太氏の講演

大会当日の午後一時より一般の部の選者の石寒太氏(俳句結社「炎環」主宰)による「石田波郷と加藤楸邨」の講演があります。ぜひご来場し、けやきホールをいっぱいにしていただきたいと思ひます。

今年の大会の一般の部には二一〇〇句余りの投句がありました。選者による審査はすでに終わり、受賞者にはまもなく通知が届く予定です。昨年は紫紺句会から久しぶりに二名が入選しました。今年も紫紺句会会員の入選を期待しましょう。

当日は午前十時よりジュニアの部の表彰式があり、午後には講演と一般の部及び新人賞の表彰式が行われます。校友の皆さんには、是非ご来場のうえ大会を盛り上げていただきたいと思ひます。

★紫紺句会報告

榎谷 榮吾 (昭46法)

紫紺句会は、毎月第三日曜日に開催しており、六月に五周年を迎えました。九月には第六十二回句会を開催したところです。新会員として六月に東久留米地域支部の校友片柳文夫さん、八月に清瀬句会の山尾久美子さんが入会しました。毎回十五名前後が出席して校友の細見道子先生の指導の下で熱心に勉強しています。今後とも楽しい句会にしていきたいと思ひます。

★合評句会報告

八月十八日(火)の紫紺句会は先生不在のため、例年どおり合評句会と銘打って、清瀬句会より九名の参加を得て紫紺句会の十一名と合わせ総勢二十名(投句総数六〇句)の句会となりました。座長は清瀬句会の森田京子さんにお願ひしました。自由に作句や選句のコメントを出し合つて楽しい句会になりました。また、句会の高点句は次のとおりで、紫紺句会より賞品を贈呈しました。

7点句（敬称略、同点句は五十音順）
Tシャツのすこし派手目の傘寿かな
妣に問ふ茄子の馬の乗りごころ

「門司港出征の碑」を訪ねて
夏窓漣征きて還らぬ人馬かな

6点句
水筒の水飲み干すや敗戦日

圧倒的に清瀬句会の皆さんが高得点でした。句会後は十二名参加して「はなの舞」にて反省会兼懇親会を楽しみました。

【紫紺俳壇】



紫紺句会指導

安らげく移りゆく世や春惜しむ

俳句結社「隗主宰

紫紺句会

客人の饒舌に黙彼岸花
若葉風赤き煉瓦の倉庫群
道後の湯清瀬へ運べ天の川
朽小舟舫ひし沼の水澄めり
麦あきや買ひ物袋揺る小径
だんご屋の赤い旗にも若葉風
放牧の牛の反芻雲の峰
昇き山笠や水浴び走る男たち
休校を我がもの顔に蟬しぐれ

穴田 作道
粕川偉三男
粕谷彌太郎
片柳 文夫
小林 信夫
斎藤 強
佐藤 房夫
島崎 光
中西 宣二

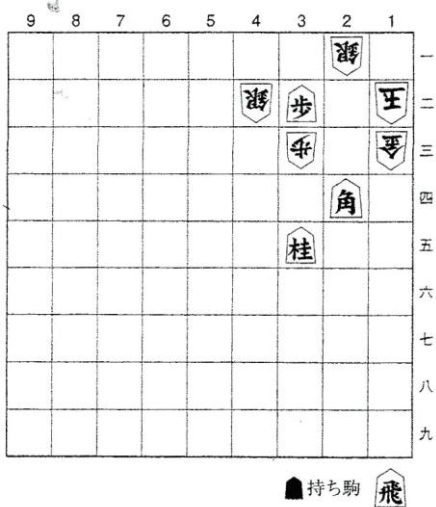
工藤 佑子
（清瀬句会）
佐藤 房夫
（紫紺句会）
中村 格
（清瀬句会）
米山 恵子
（清瀬句会）

御巢鷹の慰霊の時や門火焚く
滴りのやがて漣す千枚田
「お茶ですよ」呼ばれ狂暑の庭仕事
新緑や片道切符のケーブルカー
カタコトの英語日本語夏料理
暗闇に指の触れたる蜜狩
夏空に過ぎ去りし日々蘇る
倒れ木の花や余生に余白あり

中村 曠
夏目 忠
西尾 修一
福島 寛
砥谷 榮吾
松江 康司
村野 良明
山尾久美子

チャレンジ!

詰将棋（五手詰）（解答は次頁）



みんなの情報コーナー



一、清瀬地域支部イベント

- ① 第十一回石田波郷俳句大会
・日時 十月二十七日（日）
・会場 清瀬けやきホール
- ② 第七回多摩湖ウォーキング
・日時 十一月三十日（土） 小雨決行
- ③ 第十一回麻雀大会
・令和二年二月予定
- ④ 野鳥観察会
・令和二年二月予定
- ⑤ 観桜会
・令和二年三月予定

二、校友会本部イベント

- ① 第二十二回ホームカミングデー
・日時 十月二十七日（日）
・会場 駿河台キャンパス

三、近隣地域支部イベント

- ① 小平市民祭り（小平地域支部）
・日時 十月二十日（日）
・会場 仲町第二公園
・焼きそば販売
- ② 第九十六回箱根駅伝予選会応援
・日時 十月二十六日（土） 八時四十五分
・集合 昭和記念公園西立川口
- ③ 関東大学対抗戦（明早戦）
・日時 十二月一日（日）
・会場 秩父宮ラグビー場

詰将棋解答

- ▲一三角成 □同玉
- ▲一五飛 □二四五
- ▲二五金 まで5手詰

清瀬地域支部の情報は

清瀬のホームページ・ブログ

ホームページ <https://meiji-3.jimdofree.com/>

ブログ https://blog.goo.ne.jp/tuyosi1940_007

清瀬紫紺ネット会賞

情報・連絡用メールです。

kiyose-event@meiji-tama.net

ホームページ
清瀬地域支部



ブログ
明治郎の仲間達



訃報

故 寺井和成様 (昭35法卒)

平成三十一年四月十七日逝去

謹んで心よりご冥福をお祈り申しあげます

◎会員募集中!

年会費 一千元

夫婦会員割引制度を設けました。

配偶者 一千元

※入会初年度は無料です。

◎会費納入のお願い!

本会報は、皆様の会費で作成しています。

会費納入にご協力ください。

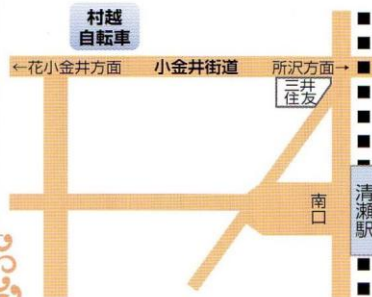
あなたの街の 村越自転車

〒204-0022

清瀬市松山2-3-3

Tel 042-491-0349

村越 勝重(S50工)



POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 マイテック

粕谷彌太郎 (S28政経)

本店

〒204-0022 清瀬市松山1-27-1

Tel 042-492-0611 Fax 042-495-8357

本社事務所

〒113-0033 文京区本郷2-40-7

YG30ビル 6F

Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763

URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

そば処 玉川

そば・うどん・井もの

配達いたします

宴会承ります

(忘年会・新年会・食事会等)

そば・うどんは自家製麺です
揚げたて天ぷらの美味しい店

営業時間 11:00~20:30

定休日 水曜日

住所 清瀬市上清戸2-6-28
(郷土博物館となり)

TEL 042-493-3890



清瀬南口店

ご宴会は50名様まで
お受けいたします

清瀬駅南口 徒歩1分

清瀬市松山1-11-12

清瀬駅前ビル2F

TEL 042-496-0253

営業時間 16:00~翌3:00

交通災害に気をつけよう!

最近の報道は、高齢者の交通事故が大きく
取りあげられています。

高齢者が加害者となり、また被害者になる
ケースが上位であることは間違いないようです。
自分自身の「心身の衰え」を実感しましょう!
なお、免許の返納もしっかり検討してはどう
でしょうか。